

## 日本国際経済学会 第4回 春季大会 報告要旨

### Equilibrium Price Definition in World Food Market Affected by Biased Preferences

名古屋大学経済学研究科 特別研究員 沖本まどか

本研究の目的は、食料の国際価格が決まるメカニズムを理論的に明らかにすることである。一般には、原油価格の高騰や食料輸出国における干ばつなどが食料の国際価格を変動させると考えられる（世界銀行の見解による）が、本研究では視点を変えて、経済成長や所得分布の変動、人口成長などが食料の国際価格に与える影響を、食料の国際貿易の分析を通じて導出する。

本研究の背景には、世界人口に関し、所得水準が低い地域での飛躍的な人口成長が見込まれていることと、2006年秋以降、世界経済が極端な食料価格の変動を経験したこと、またこれらの事象に付随して衛生的な食料供給の問題がクローズアップされるようになったことがある。国連人口基金（UNFPA）の2011年版「世界人口白書」によると、今世紀末までにアフリカの人口が現在の3倍以上の約36億人となることが予測されている。このように急増する低所得者層ほど相対的に安価な食料を求めると推測できるが、過度に安価な食料は、その安全性や品質において問題のある食料であるかもしれない。よって低所得者の世界的な増加及び食料の国際価格の上昇は、栄養と食の安全の問題を悪化させかねない。一方で、所得の高い人々は高価でも安全な食料を好みうる。BRICSなど一部の発展途上国に関しては、かつてのNIEsやASEANのような経済成長が予測されるため、今後、所得の高い地域が拡大するにしがたい、安全な食料への需要も高まると推測できる。

このような点を踏まえ、本研究では、当該経済における人口成長や経済成長の発生を想定したうえで、発展途上国産の食料には安全性の問題があるものとし、安全性と安さとのトレードオフと、私的な所得水準に影響を受ける消費者の選好（所得が低いほど、安全性の低い食料から高い効用を得る）をモデル化し、食料に対する需要関数を導出する。この需要関数に基づき、安全な食料を供給する先進国の代表的企業と、健康リスクはあるが安価な食料を供給する発展途上国の代表的企業による国際ベルトラン競争を想定し、食料の国際価格がどのように決まるかを分析する。ただし、当該経済の所得分布の形状は非線形と仮定したうえで特定化しない。そしてこの設定に基づき、所得分布における山が1つではなく2つである経済を想定して、所得分布の形状が食料価格の決定に与える影響も考察する。

分析の結果、一国の最高所得の上昇や最低所得の低下（即ち、一国における所得分布の拡大）により、安全な食料の国際価格も安全性に疑問点のある食料の国際価格も、ともに高騰する傾向があると示された。より厳密には、選択する食料のタイプが切り替わる所得水準付近における所得分布の形状（所得水準についての減少関数なのか、増加関数なのか、横ばいなのか）が、食料の国際価格の決定に間接的に影響を与えることも明らかとなった。